

市民協働推進モデル事業相互評価表

事業名	中学生が地域の大学生、保護者と交流するキャリア教育プログラムのモデル化		実施団体名	NPO法人だっぴ	事業総額 (決算額)	1,878,947円
			担当課名	岡山市教育委員会事務局指導課 教育委員会生涯学習課		
NO.	評価項目		自己採点 (各項目20点満点)	評価の理由		
1	目的・課題 目標設定	当初に設定した目標を達成することができましたか？	18/20	<p>○プログラムについて</p> <p>目標(1)多様な人と交流し、視野の広がりや自己肯定感が高まる機会を中学生に提供すること 目標(2)地域の大人が学校教育に関わる機会をつくり、教育や地域への関心を高めること (1)については実施前後アンケートを行い変化を調査した。参加した中学生の価値観の広がりや自己肯定感を向上させることができた。(2)について、現状集りやすいのは元々地域に関心のある大人が多い。しかし実施機会が増えることや参加方法が増えてきたことにより多様な層の大人に参加してもらうことができた。ひとつの地域で継続して行うことができれば、より関心を高めていくことができると思われる。</p> <p>○実施体制</p> <p>目標(3)多様な地域での実施ができる方法を模索する 岡山市内の環境の異なる4中学校で実施することができた。実施してみることで見えてきた課題や可能性がある。想定したより地域ごとのリソースのちがいがあり、具体的な方法は引き続き模索していく必要がある。</p>		
2	発展性	さらなる発展や波及につながる成果を得られましたか？	18	<p>(1)具体的な課題や可能性が明確になった 実施してみることで、具体的な課題や新たな方法や連携が生まれ、今後の動きのヒントを得た。今年度の経験を活かし、課題への対策や今後の実施方法を引き続き模索するとともに、近い未来実現していけるよう形づくっていく。 (2)連携やつながりの強化 おとなや大学生が関わる機会が増えることで、岡山県内の大学や企業との連携ができるようになった。来年度は岡山大学内の授業としてのキャスト参加を予定している。 (3)認知度の向上 岡山市内での継続した実施や参加者数、メディアへの掲載が増え、だっぴを知る人が増えた。認知度が上がることで、参加のハードルが下がったり子どもを安心して参加させることができる。</p>		
3	実現性	連絡調整、経理、報告など事業に関する事務は適正に行われましたか？	13	<p>協働課が定期的な連絡調整を行ってくださり、それぞれの進捗を定期的に確認することができた。経理や報告については、前年度の経験より効率化することができたように感じている。 事業中心になり後回しにしがちなので、事業を実施しながらより適正に行える仕組みをつくっていききたい。</p>		
4	成果	利用者、参加者をはじめ、市民の満足度向上につながりましたか？	18	<p>参加した中学生をはじめ、大人やキャスト(大学生世代)へ実施した参加アンケートでは、ほぼ100%の参加者が“参加してよかったですか？”の問いに、“とてもよかった”または“よかった”と回答した。記述欄には、中学生が“またやりたい”、“こんな機会が増えてほしい”との記載も多数見られた。前年度からの継続実施校では、前回参加した大人が多数参加し中学生だっぴの機会が地域の大人に受け入れられていることを実感。また、キャストに宛てた“たのしみにしている”とのハガキをいただいた。100%を目指し内容の精査と改善をしていきたい。</p>		
5	協働効果	相互が役割と責任を担い、協働による相乗効果を生むことができましたか？	10	<p>○NPO法人だっぴ</p> <p>岡山市教育委員会と協働することで、中学生だっぴの実施をスピード感をもって行うことができた。また関心を持った中学校が手を上げやすく、参加する大人や大学生にとっても関わり方のハードルを下げることもできた。広報協力により、学生に直接呼びかける機会やチラシを渡せる層が増えた。</p>		
6	総合評価(実施団体より)	<p>2年目の実施により、参加者をはじめ協力者が増えた事を実感している。これは市教育委員会と協働したことによる効果も大きいと思われる。それにより、より多くの中学生にこのような機会を届けることが可能となった。また大人や大学生にとっても自己や他者を認めるになり、このような場が継続していくことは、子どもを取り巻く環境をよりよくしていく土壌づくりにつながるのではないだろうか。岡山市教育委員会との協働を起点に、様々な地域団体や学校などとの連携を広げ、岡山市全体で子どもを守り育つ環境をつくっていききたい。 上記のような環境づくりに、今後もだっぴのような場を必要としている子どもや地域に届けていくことが力になれることも感じた。そのために今年度の実施により浮かび上がってきたいくつかの課題もクリアする必要がある。 平成29年度は、実施するために地域の主体では難しい部分をフォローできる施策づくりや、実施可能性を広げていくためのプログラムメニューづくりに重点を置き協働を進めていきたい。</p>				
6	総合評価(担当課より)	<p>(指導課) だっぴプログラムがキャリア教育の視点を生かした活動の一つとして有効であることが認識できた。また、取組を拡大・継続していく上での課題も見えてきた。今後は、学校の主体的な教育活動を妨げることなく、教育目標や学校規模、生徒の生活や希望進路等、状況の異なる学校へのより効果的な実施方法を検証していく必要がある。</p> <p>(生涯学習課) ・学校行事において、世代間交流を行う「中学生だっぴ」の取組は、学校と地域のつながりを深める一助となっている。 当課としては、昨年度に引き続き、チラシの配布等を行って事業PRに務め、大学生ボランティアの参加募集の協力を行っていく。</p>				
	総合評価(ESD・市民協働推進センター)	<p>モデル事業2年目は人数や設備の異なる4つの中学校でのプログラム実施を通じて、参加者の調整や学びに適した環境づくりのためのノウハウを蓄積することができました。特に総勢600人の規模となった「吉備中学校」でのだっぴを成功させたことは、実施団体と担当課に大きな自信を与えただけでなく、その他の中学校に対してもプログラムの汎用性の高さを示す大きな意味があったと思われます。一方でさらに多くの中学校でだっぴを実施するために解決しなければならない問題は残されたままとなっており、財源や参加者の安定的な確保については解消のめどがたっていない。そのため、次年度も継続的に制度化の可能性を探りつつ、地域移行のためのマニュアルづくりを通じた運営の効率化など、様々な選択肢を視野に入れながら安定的な運営の方策を探っていただきたいと思います。</p>				